

武庫川総合治水対策の効果量（これまでの試算経緯）

第37回流域委員会  
参考資料2

(H18.3.21)

流域対策	対策施設	効果量（甲武橋）						
		小 ←	これまでに検討したケース				大（全施設） →	
流域対策	学校	選定した36箇所 公立の内、グラウンド面積10000㎡以上 オンサイト貯留	すべての学校114箇所 オンサイト貯留	選定した学校36箇所 公立の内、グラウンド面積10000㎡以上 オフサイト貯留	選定した学校36箇所 公立の内、グラウンド面積10000㎡以上 1/20規模対応オリフィス オフサイト貯留			青野流域以外のすべての学校114箇所 オフサイト貯留
		1m³/s (S57型降雨)、1m³/s (H16モデル降雨)	2m³/s (S57型降雨)、2m³/s (H16モデル降雨)	5m³/s (H16モデル降雨)	5m³/s (H16モデル降雨)			9m³/s (S57型降雨)、12m³/s (H16モデル降雨)
	公園	選定した73箇所 開設面積0.1ha以上、街区、近隣、地区公園 ため池が面積の多くを占めるもの以外 青野ダム流域以外 オンサイト貯留	選定した公園80箇所 開設面積0.1ha以上 ため池が面積の多くを占めるもの以外 基本的にオフサイト貯留 大規模なものは地形で判断し、オンサイト貯留	選定した公園80箇所 開設面積0.1ha以上 ため池が面積の多くを占めるもの以外 基本的にオフサイト貯留 大規模なものは地形で判断し、オンサイト貯留 1/20規模対応オリフィス	すべての公園127箇所 開設面積の40%に貯留 オンサイト貯留			すべての公園127箇所 開設面積の40%に貯留 オフサイト貯留
		0m³/s (S57型降雨)、0m³/s (H16モデル降雨)	2m³/s (H16モデル降雨)	2m³/s (H16モデル降雨)	9m³/s (S57型降雨)、13m³/s (H16モデル降雨)			29m³/s (S57型降雨)、39m³/s (H16モデル降雨)
	ため池	選定した39箇所 満水面積10,000㎡以上、流域面積0.1km²以上 治水容量の総貯水量に占める割合80%以下 所有者が国、県、市、財産区 青野ダム流域以外、水深2m分を治水活用	選定した26箇所 満水面積10,000㎡以上の市街地にあるため池 水位低下2m	選定した84箇所 満水面積5,000㎡以上、流域面積0.1km²以上 治水容量が総貯水量を占めるものは除く 所有者が国、県、市、財産区 青野ダム流域以外、水深低下1m	選定した108箇所 満水面積5,000㎡以上、流域面積0.1km²以上 治水容量が総貯水量を占めるものは除く 青野ダム流域以外、水深低下1m			満水面積10,000㎡以上のため池87箇所 嵩上げ1m
		41m³/s (S57型降雨)、58m³/s (H16モデル降雨)	8m³/s (S57型降雨)、9m³/s (H16モデル降雨)	35m³/s (S57型降雨)、41m³/s (H16モデル降雨)	51m³/s (S57型降雨)、57m³/s (H16モデル降雨)			69m³/s (S57型降雨)、85m³/s (H16モデル降雨)
	水田	数値として見込まない	流域内の水田の内の1539ha 圃場整備面積の内、転作面積（圃場面積の40% 程度）は除く 治水容量としての湛水深125mm（畦畔嵩上げは 無し）					流域内の水田約5,600haを対象 治水容量としての湛水深200mm（畦畔嵩上げ を前提）
0		11m³/s (S57型降雨)、28m³/s (H16モデル降雨)					339m³/s (S57型降雨)、425m³/s (H16モデル降雨)	
防災調整池	選定した36箇所 県、市が所有しているもの						すべての防災調整池176箇所	
	3m³/s (S57型降雨)、3m³/s (H16モデル降雨)						10m³/s (S57型降雨)、12m³/s (H16モデル降雨)	
各戸貯留 ・雨水浸透型施設	数値として見込まない						流域内の5万戸で浸透ますを設置	
	0						9.72m³/s	
その他 (駐車場、棟間 、大規模開発)	—	—	—	—	—	—	—	
	0							
河川対策	①結果として 湛水	採用しない	上流域農地、掘削なし、71.7ha (6箇所)					上流域農地、掘削なし、108.3ha (13箇所)
		0	25m³/s (S57型降雨)、17m³/s (H16モデル降雨)					42m³/s (S57型降雨)、39m³/s (H16モデル降雨)
	②公共施設 ・都市施設	採用しない	下流域公共施設、掘削 69.8ha (6箇所)	中流域公共施設、掘削 5.3ha (1箇所)				①中流域公共施設、掘削 16.4ha (5箇所) ②下流域公共施設及び民有地、掘削（民有地 は地下貯留） 107.9ha (6箇所)
		0	416m³/s (S57型降雨)、412m³/s (H16モデル降雨)	38m³/s (S57型降雨)、43m³/s (H16モデル降雨)				①92m³/s (S57型降雨)、133m³/s (H16モデル降雨) ②546m³/s (S57型降雨)、522m³/s (H16モデル降雨)
	③河川施設	中流域に1箇所設置 12ha、掘削有り	中流域に2箇所設置 64.1ha、掘削有り					中流域に3箇所設置 77.3ha、掘削有り
		43m³/s (S57型降雨)、42m³/s (H16モデル降雨)	167m³/s (S57型降雨)、228m³/s (H16モデル降雨)					255m³/s (S57型降雨)、298m³/s (H16モデル降雨)
	利水ダム	採用しない	山田ダム、水位2m低下	川下川ダム、水位2m低下	丸山ダム、水位2m低下	深谷池、水位2m低下	青野ダム、水位2m低下	千苅ダム、水位2m低下
		0	9m³/s (S57型降雨)、12m³/s (H16モデル降雨)	39m³/s (S57型降雨)、42m³/s (H16モデル降雨)	34m³/s (S57型降雨)、47m³/s (H16モデル降雨)	11m³/s (S57型降雨)、11m³/s (H16モデル降雨)	117m³/s (S57型降雨)、116m³/s (H16モデル降雨)	164m³/s (S57型降雨)、189m³/s (H16モデル降雨)
	新規ダム	採用しない						新規ダム
		0						825m³/s (S57型降雨)、637m³/s (H16モデル降雨)
河道対策	甲武橋地点3100m³/s対応河道	甲武橋地点3500m³/s対応河道	甲武橋地点3700m³/s対応河道				甲武橋地点4400m³/s対応河道	

※「—」は未検討項目  
※上段は効果量算定の条件、下段は効果量である。（甲武橋地点、青野ダム有りからのピーク流量低減量）  
※各対策施設の検討ケースの組合せは考慮していない。（単独効果量）  
※効果量は現時点での試算値である。